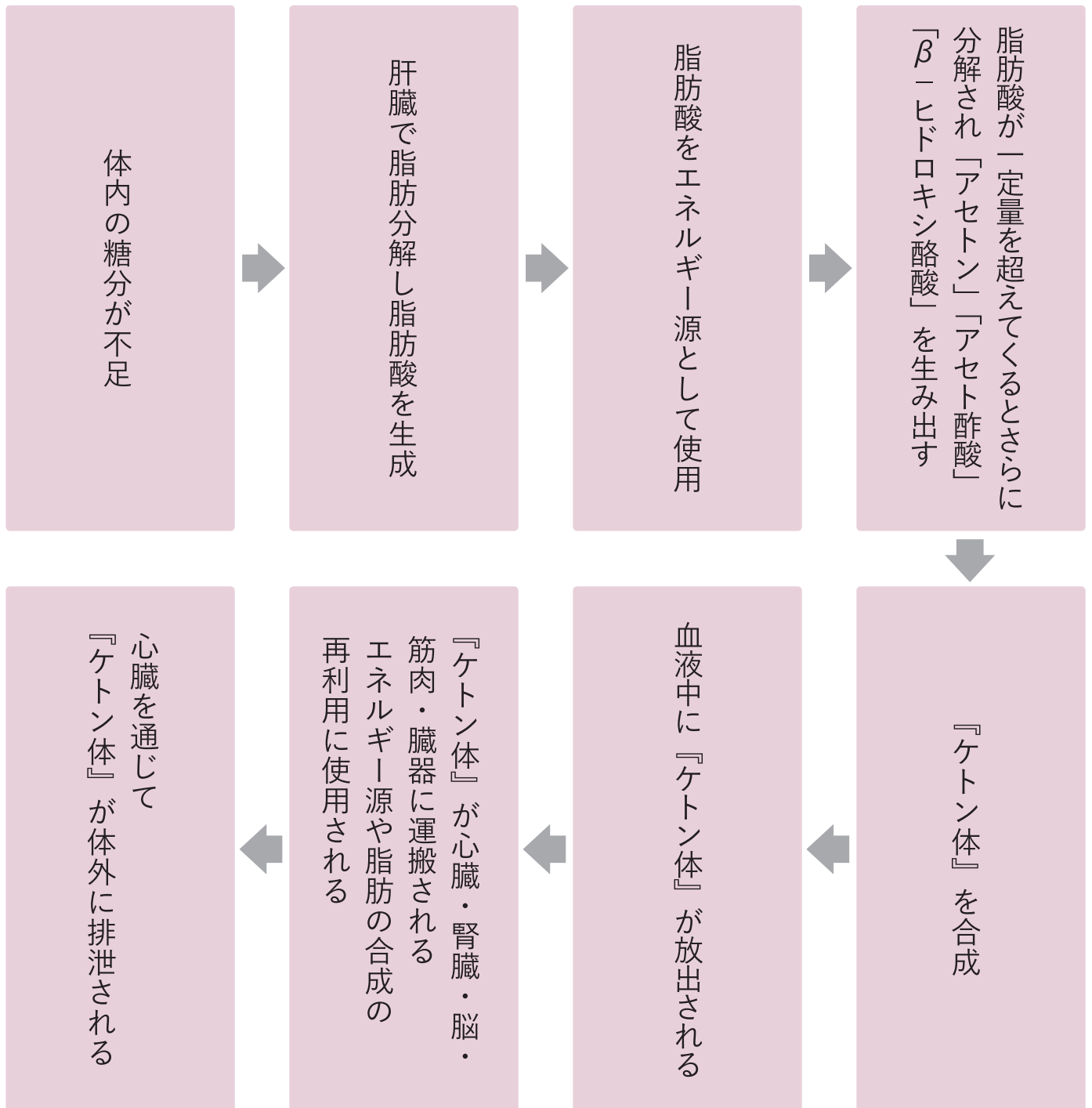


「ケトン体」の誕生から体外排出までを簡単にあらわすと・・・



肝臓ではケトン体を生成するだけで肝臓機能の働きの為には利用されないといわれています。

体内のブドウ糖が充分にある時にはケトン体は作られにくいのですが、体調が悪くて食事が取れないなど絶食すると体内は血糖値を上げようと肝臓のグリコーゲンを分解してブドウ糖を作り始めます。

脳のエネルギー源はブドウ糖しか利用できませんので血液脳関門を通過できない脂肪酸は利用できない状態になります。

そうすると、脳細胞の働きが停止してしまい生命の危機になります。そこで脂肪酸が燃焼するときに脂肪酸を分解する過程で『ケトン体』が作られるのです。

『ケトン体』は水溶性で細胞膜や血液脳関門を通過することができるので、心臓や腎臓などの多くの臓器や脳、筋肉に運ばれブドウ糖に変わるエネルギー源として利用され、生命維持へと導いているのです。体内に蓄積された脂肪や食べ物の中から『ケトン体』は肝臓で作られますが、なかでも中鎖脂肪酸からより効率よく作られることが最近の研究でわかりました。